

カトリック 仙台教区報

2018年4月1日 No.234

発行

カトリック仙台司教区
〒980-0014

仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL <http://sendai.catholic.jp/>

「カトリック仙台教区報」再刊に際して ——仙台教区長 平賀徹夫司教に聞く

Q：今回、ご復活祭に「カトリック仙台教区報」を再刊することに決まりましたが、再刊に際してのご感想は？

司教：丸1年以上、教区報が休刊していたことについて、教区の皆さまに、何とも申し訳なく思っていました。そのため、やっと、再刊の見通しがたつことになって、本当にありがたいと思っています。1年間だけの休刊ですんだのは、幸いだと思います。

Q：教区報への期待は？

司教：教区の皆さんが、読みたくなるような「教区報」に仕上がったらいいなあ、と期待しています。聖堂の入り口に積まれているのではなく、教区の皆さんが、手にとって、見てくださることを願います。そのためには、編集に携わってくださる方々は、広く、教会の動きや教区全域の様子分かるようなページを作るように心がけてくださることが必要になってきますし、各地区・小教区の皆さんは、原稿の依頼がきたときには、快く引き受けて、書いて送ることが必要ですし、同時に、「こんなニュースがありますよ」と編集者に教えてあげることも、重大な務めの1つですね。「教区報」というからには、教区のメンバー一人ひとりがそれぞれの役割を果たすことによって、教区報を作り、育てていくものです。教区の動きを伝えるメディアとしての「教区報」に期待を寄せています。

Q：再刊される「教区報」は、毎月発行されるのでしょうか？

司教：いいえ、現在計画されていることは、年に4回発行するということです。季刊でまず始め、その内に軌道にのれば、隔月発行にしたいですね。毎月発行にするかどうかは、それ以降のことになると思います。

Q：日本には16の教区がありますが、教区報はどの頻度で発行されているのでしょうか？

司教：多くの教区は毎月、教区報を出しておられます。たとえば、東京、京都、大阪、長崎、福岡、鹿児島など。さいたまは、岡田大司教様がさいたま教区に行かれ、4年ぶりに再刊されました。

Q：再刊第1号には、どんな記事が載るか楽しみです。

司教：まず、教区全体の動きについて、教区本部から発表されるニュースがあるでしょう。それから、各地区のニュースがあります。行われたということだけが、ニュースではありません。現在こんな問題を抱えていて、みんなで話し合っ、解決しようとしています、ということもニュースですね。今、地区と申しましたが、地区だけではなく、小教区、施設、修道会、学校、社会福祉関係、どんなところからでも記事を寄せてほしいと願っています。

これまで、教区報を黙々と作り続けてくださった岩井誠さん、一緒に編集作業をしてくださったスタッフの皆さんにも、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。今後も意見や提言、批評などいろいろと寄稿していただければありがたい。（聞き手：Sr.長谷川 昌子）



仙台教区、この一年の歩み

この一年間の教区の動き（日本の教会全体の動きも含む）

- 2017年 2月 7日 ユスト高山右近列福式（大阪大司教区 於：大阪城ホール）
 3月27日 二戸教会（岩手県）閉鎖 この地での福音宣教の任を終える
 4月 1日 仙台教区「子供と女性の権利を守る委員会」発足
 人権意識が教区内において高まることを目指して
 4月12日 司教書簡「『司祭不在の時の集会祭儀』を行うに際して」発表
 次世代の教会のために今出来ること
 6月 9日 仙台教区修道女連盟総会（司教座聖堂）
 テーマ：平賀司教様との分かち合い、各修道会の現状や、小教区とのかかわりで困難に
 感じていることなどを司教様と分かち合う
 8月 4日 ケニア、ワイナイナ司教来仙
 9月22日 福音宣教省長官、フィローニ枢機卿来仙
 「希望」のメッセージを携えて、被災地訪問
 9月23日 宣教司牧評議会定例会
 2018年度教区研修会開催について
 12月 9日 広瀬川殉教碑（改修）祝別（9面参照）
 12月 9日 ウェイン・バーント師、那覇教区司教としてバチカンより任命される
 12月16日 菊地功司教（新潟教区長）、東京大司教として着座
 12月23日 笹氣直哉神父追悼ミサ（5面に訃報記事）
- 2018年 1月 1日 平賀司教「年頭書簡」発表

宣教司牧評議会報告

溝部司教の時代から始まった教区研修会は、今では毎年の宣教司牧評議会の議案の柱になっています。その目的は、信徒、修道者、司祭の生涯養成が第一であり、更に、その研修に参加した方々の活躍によってそれぞれの小教区における宣教司牧活動及び教会運営が活性化することが挙げられます。したがって、教区研修会の開催が教区の中で定着してきたことは、それが遅々たる歩みだとしても、継続してきたことに確かな神さまの恵みを感じます。

1. 教区研修会のテーマの歩み

- ①2010年までの5年間は、教会共同体内での信徒の役割と意味を深める内容のものや教会そのものを見つめ直す内容のものが多かったようです。
- ②2011年は大震災の年で、予期せぬ形で私たちの教会が外の世界（地域）と結びつきました。被災した方々のお話を聞くことを支援活動の中心に据え、その年の研修会のテーマを「傾聴とは」にしています。
- ③その後の2012年からは、教会活動の中心である典礼の学びを3年にわたって行い、
- ④2016年は私たちが教会の中で培ってきた「信仰を次の世代に繋げること」をテーマとしています。この頃から、定例会ではテーマの承認をし、開催方法に関しては地区ごとに任せる形が増えています。地区として、その地区に合った手法を模索し、地区独自の開催になっていったことは、地区内の運営が軌道に乗り始めてきた表れなのかもしれません。
- ⑤2017年には以前に典礼の時にも扱った「主日の集会祭儀」についてもう少し掘り下げて行うことにしました。このテーマは2018年でも扱います。

2. 当面の課題

この数年の中で「主日の集会祭儀」を扱うことにしたのは仙台教区の現状を顕著に表しています。数年前から仙台教区では主日のミサを一人の司祭が2、3回行わないと間に合わなくなっています。しかも2、3回ということは広い仙台教区の教会を2、3カ所回るということであり、移動は車だとしても大変であることは容易に想像ができますし、高齢化する司祭団が今のままを続けるのは難しくなってきました。そこで、今こそ、信徒の皆さんの出番です！といったことを今

年、来年のテーマと決めました。「主日の集会祭儀」については、これまで教区研修会で学び、培ってきた、「教会とは何か?」「教会の中での典礼とは?」「信徒、修道者、司祭それぞれの役割とは何か?」を結集させたものなのです。そして、これからの仙台教区では「主日の集会祭儀」をなくてはならない大切なものとして位置付けているからです。これからも、宣教司牧評議会では、信徒の皆さん一人ひとりの信仰生活を守り、ともに歩む喜びを、多くの人々に分かち合うことを目指しています。(小松 史朗神父)

司祭評議会報告

司祭評議会は主に毎年8月と12月
に開催される「仙台教区司祭の集い」
に向けて、その開催要項と議案等を準備する会議です。そのため司祭評議会のこの1年間の動きは、「仙台教区司祭の集い」がどのようなテーマで開催されたか、どのような話し合いがなされたかを知ることによって、その概要を伺うことができますでしょう。

◎2017年度夏の仙台教区司祭の集い

1. テーマ:「終身助祭制度」を仙台教区に導入することの是非について
2. 開催日:2017年8月28日(月)、29日(火)、開催場所:ラフォーレ蔵王、参加者:21名
3. 話し合いの概要
 - ①今回のテーマの背景は、司祭の高齢化と司祭召命の減少に関わる危機感にあります。司祭が不足するだけでなく、集会祭儀奉仕者も小さな教会では不足しています。この危機を脱する道はないのでしょうか。
 - ②その一つの答えが、「終身助祭制度」を導入するという道でした。
 - ③「終身助祭」職は、司祭になる前の一時的な奉仕職ではありません。「終身」なのです。
 - ④しかし、助祭も聖職者である限り、問題の解決を「聖職者」を増やすことによって図るという批判も生じるでしょう。(聖職者中心主義)
 - ⑤また、「信徒使徒職」を推進するという従来の歩みと逆行しはしないかという疑問も出されました。
 - ⑥資料として提示された「終身助祭制度導入教区へのアンケート結果」からも、終身助祭養成の具体的問題、「助祭職」とは何かについての共通理解の不足等、課題も示されました。
4. その結果、仙台教区司祭団としては、「終身助祭制度」を教区に導入するのは時期尚早であると考え、その旨同席の司教に報告いたしました。

◎2017年度冬の仙台教区司祭の集い

1. テーマ:葬儀について
2. 開催日:2017年12月4日(月)、5日(火)、開催場所:花巻温泉、ミサはカトリック花巻教会、参加者:25名
3. 話し合いの概要
 - ①終身助祭制度の導入は前回の集いにおいて時期尚早と判断されました。しかし現実問題として、信徒の葬儀に司祭が十分対応出来ているのでしょうか。
 - ②まず、『カトリック教会の葬儀』緒言を読みあわせました。その7項に以下のように記されており、このことは多くの司祭にとって大きな発見でした。「ミサを除いて助祭または信徒も司式することができる。とくに故人宅および墓地での故人への表敬、通夜、告別、火葬場での祈り、埋葬の祈り、命日祭の祈りは、信徒によって行われるよう勧められる。」
 - ③その後、各地区での現状が報告されました。最近の傾向として葬儀が教会聖堂ではなく、葬儀社の斎場で行われることが多くなっていると指摘されました。
 - ④また、葬儀は決して個人的な出来事ではなく、教会共同体の出来事にほかならないという観点も強調されました。司祭・信徒の区別を超えて、共同体として関わるのが大切であるとの指摘です。
 - ⑤以上の話し合いの後、葬儀ミサ以外については信徒が積極的に関わる事が出来るように今後「指針」を作成していく。他方、葬儀ミサに関しては信徒が不安になることのないように、司祭が地区内・地区外を問わず互いに連携して協力し合う必要があることが確認されました。
4. 葬儀は信仰者にとって大切な出来事であり、この葬儀が行われるかどうかについて信徒を不安にさせることがないように最善の努力を払う必要があるでしょう。そのためにこそ司祭同士の協力体制の実が問われますし、同時に信徒の皆さんとの協力が求められるのです。その歩みを支えるために「葬儀関係の指針」あるいは「信徒奉仕者に関わる覚書」を教区として作成することが望まれています。(會津 隆司神父)



訃 報



マックス・エンデルシ神父（ベトレヘム外国宣教会）

1926年6月 4日 生まれ（スイス）

1953年3月29日 叙階

2017年3月11日 帰天

1954年来日、1963年以降遠野教会・釜石教会において活躍。

エンデルシ神父様の在りし日

佐々木 道子 遠野教会

エンデルシ神父様は、山々に囲まれ、スイスの気候とよく似ているという遠野が大好きでカトリック遠野教会から離れがたく、昭和38年2月に司祭として就任してから平成24年3月までの49年間、教会・幼稚園・地域住民のために、また、遠野市勢振興功労者として、ボーイスカウトの活動リーダーとして、スイスへの農業実習生派遣協力など、多方面に亘り尽力されました。神父様は見てのとおり身体が大きく、『こどものせかい』の絵本に登場する「どんくまさん」のように、温厚な人柄で、誰にでもやさしく親切、包み込んでくれるような温かさでいつも私たちを見守ってくださいました。教会では、自分を顧みず、一人ひとりに救いの手を差し伸べる信者さんからの信頼もあつかったです。教会関係者のみならず、遠野市民からも慕われ、人と人の付き合いを大切にされる神父様でもありました。神父様の趣味も多種多様で、春から秋にかけて登山、冬はスキー、花の写真撮影、金魚の飼育、切手収集などです。夏になると「休暇です」と一週間の予定で長野県近県をまたぐ山に挑戦します。岩手県では高山植物の宝庫、早池峰山（はやちねさん）が大好きで毎年数回は登っていました。私たちの幼稚園年間行事の予定にも必ず早池峰山登山が計画され、山の自然の美しさを私たちに教えてくださいました。職員旅行は東北の山々を散策したものです。高山植物では、特にエーデルワイスと似ている花「早池峰うすゆき草」を好み鑑賞や写真撮影だけでは物足りず、種から育てるため、同じ気温で育てないと……教会の冷蔵庫はもちろんのこと幼稚園の冷蔵庫まで占領して育てるという力の入れ具合でした。山の友は、ローネル神父様とヨゼフ神父様、いつも三人一緒！山を歩きながら「神様の創られた自然の偉大さを感じ自然の恵みに感謝しましょう」と私たちに語りかけた言葉は今でも心に残っています。

フォーレ・エノ神父（ケベック外国宣教会）

1930年8月 2日 生まれ（カナダ）

1953年6月28日 叙階

2017年7月22日 帰天

1957年来日以降 弘前学生センター、黒石教会などにおいて活躍。

エノ神父様の思いで

葛西 和世 弘前カトリック学生センターOB

私がエノ神父と初めてお会いしたのは中学2年の春、今から40年ほど前のことです。当時の神父様の印象は、「声と体の大きい日本語のうまい外国人」という感じでしょうか。

そのあと、弘前でお会いする度に、その外国人色は少しずつ薄れ、日本人以上に日本人ぽいと思うようになりました。昭和57年4月、弘前カトリック学生センター（以下センター）の寮に入寮し、神父様は私のもう一人の「父」になりました。神父様が最も大事にされたのは「祈ること」、特に「ミサ」でした。当時、多くのセンター員は未信者で、信者は少数派でした。未信者の学生がセンターの寮に入寮する主な理由は経済的なことで、特にキリスト教に興味がある訳ではないという方が大半でしたが、そんな学生たちにも神父様のミサは大変受け入れやすいものだったのです。ミサは神父様が作るパンフレットによって進められました。ミサの内容はその都度考えられたもので、少なくとも、私がいた4年間で同じ内容のミサは一度もありませんでした。神父様によって、時間と労力を惜しまず周到に準備されたミサは多くの学生にとって喜びとなっていたと私は確信しています。また同時に、ミサは神さまに捧げるため、信者自身が「創る」ものなのだと私の脳裏に強く焼き付けられました。来日以来半世紀以上、人生の大半を日本、特に仙台教区のために献げられ、最後まで司祭であることを望み、司祭職を全うされたエノ神父様は私たちセンターOBの誇りです。私達学生センターOBは、エノ神父様を心から敬愛しています。エノ神父様を通して、私たちに祈りを教えてくださいました父なる神様、私たちのエノ神父様に永遠の安息をお与えください。アーメン





洗礼者ヨハネ 笹氣 直哉 神父（横浜教区）

1947年7月7日 宮城県仙台市生まれ
 1977年9月15日 司祭叙階（仙台教区・元寺小路教会）
 2017年12月4日 帰天
 1978年以降 元寺小路教会助任、仙台司教館、千厩教会主任、水沢教会主任、石巻教会主任、仙台中央地区モデラートルを歴任
 2004年 横浜教区へ移籍

「思いで」

平間 千津 塩釜教会

その部屋は、コーヒーの香りとたくさんの笑い声が満ちてあふれていました。元寺小路教会の「直哉さんの部屋」です。教会学校のリーダーの方や大学生になって仙台に住むことになった方など、たくさんの青年が集まり、いつも賑わっていました。幼児洗礼を受けて、毎週日曜日に教会に通っていた私は、その当時高校生でした。冬でも下駄を履いて、大声で笑う直哉さんにびっくりしたのを覚えています。

大学生になってからは、中学生会のリーダーや教会報作成のお手伝いなどでお世話になりました。中学生会の夏休み合宿で一緒に過ごしたときには、おっちょこちょいの私が何かしてかすたびに、みんなと一緒に笑ってくださいました。今思えば、ありのままの私を受け止めてくださっていたのだと思います。

教会の仕事だけでなく、私たち青年とたくさん遊んでくださいました。数字を計算しながら遊ぶ「ドボン」というトランプゲームが流行し、「直哉さんの部屋」に来る人来る人を仲間に引き入れては遊び、どんどん青年たちの輪が広がっていきました。遊びを通して「関わり」が生まれ、そこから関わりが深まり、さらに新たな人と関わっていく。

人と関わることの大切さをこの時期に感じることができた私は、本当に幸せだと思います。

「直哉さん、12月23日の追悼ミサにはたくさんの元青年たちが来ましたよ。ミサの後、みんなで集まり、あの頃のようにコーヒーを飲みながらたくさんお話ししましたよ。」

何人かの方が、「悩める青年時代に直哉さんの言葉に救われた。」と話していました。

「頑張らなくていいんだよ。」「ありのままでよいの。」そんな数々の言葉をふとしたときに思い出します。

「みんなの心の中に生き続けている直哉さん。これからも私たちのことを見守ってくださいね。」

ポアソノ・ルシエン神父（ケベック外国宣教会）

1950年来日、その後青森浪打教会、
 十和田教会で宣教司牧に従事
 2017年8月27日カナダのケベック
 外国宣教会本部にて帰天（94歳）

聖ウルスラ修道会

スール シエナのカタリナ竹内和子

1928年 誕生
 1953年 初誓願
 仙台ウルスラ学園小学校、八戸白菊学園小学校で教鞭をとる。
 2017年5月28日 帰天（89歳）
 スール マリア・マグダレナ大竹弘子
 1926年 誕生
 1950年 入会
 1954年 初誓願
 幼稚園園長や学園理事として幼児教育一筋に生涯をささげた。
 2017年7月17日 帰天（91歳）



学校法人明の星学園の理事長、学長、
 校長を務める。
 2017年 カナダで帰天（101歳）

善き牧者の愛徳聖母修道会

スール 五十嵐君子

1930年 福島県で誕生
 1957年 初誓願
 仙台の児童養護施設で責任者として奉仕。
 2017年 8月11日 帰天（87歳）



シャルトル聖パウロ修道女会

スール マリ・イメルダ相川幸子

1932年 誕生
 1954年 入会
 1957年 初誓願
 仙台、盛岡の白百合学園小学校教諭、
 校長を歴任
 2018年1月23日 帰天（86歳）



聖母被昇天修道会

スール アンリエット・カンテン

1916年 カナダ ケベック州で誕生
 1933年 入会
 1952年 来日

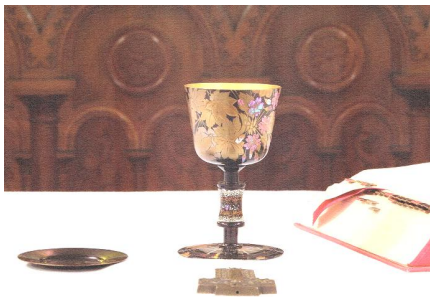


各地区からの便利り

第7地区より

地区大会

9月17日、野田町教会を会場に地区大会を開催し、2017年度の仙台教区の課題テーマ「集会祭儀」について学び考えました。午前中は平賀司教様をお迎えしてご講演をいただき、昼食と午後の時間にご講演をお聞きして感じたことについて、「分かち合い」とまとめを発表しました。合同ミサでは主日に皆で集えることをあらためて喜び、神様を賛美し感謝を捧げました。



会津若松教会

カトリックの聖具を主題とした須藤靖典氏（会津若松教会）の蒔絵展「思いを馳せて」が11月7日から12日まで京都市中京区のギャラリーH2Oで開かれました。出品された「溜塗櫻紅葉蒔絵聖杯（ためぬりさくらもみじまきえ せいはい）」（写真）は個展を象徴するものでした。

野田町教会

野田町教会では今年も「～御聖堂に響く アヴェ・マリア～クリスマスコンサート」を開催した。12月17日の午後、御聖堂にオルガン（富山律子さん）ソプラノ（遠藤紘子さん）の歌声が響き渡った。また今回は「賢者の贈り物」の朗読（和合敦子さん）もあって、170名の聴衆はクリスマスの物語と音楽に包まれたひと時を過ごした。

（渡邊 祐子 野田町教会）



第8地区より

いわき教会

仙台教区第8地区教会訪問

11月26日、いわき教会（巡回教会湯本、小名浜教会を含む）は仙台教区第8地区教会訪問を行いました。大島宏第8地区会長が信徒14人を引き連れ、マイクロバスで午前8時半にいわき教会を出発。10時過ぎに郡山教会に到着。10時半から、郡山教会と第8地区のコラボ事業になった「平和を祈ろう PART3 in 郡山」に参加。歌とギターの楽しい時間を過ごしました。

郡山教会

『平和を祈ろう PART3 in 郡山』第8地区ミニコンサート 11月26日 10:30~15:00
いわき、白河、須賀川、郡山から 45名参加

「アーメンハレルヤ」「神さまといつも一緒」「愛する者よ」など
20曲ほど演奏。



『平和を祈ろう』の作曲者、末吉ご夫妻が茨城から、またかつてのシシリアンファミリーのリーダー、木村たつ子さんが来場され、おおいに盛り上がりました。

昼食後記念撮影をし、午後1時過ぎに、今度は二本松教会へ向かいました。ここでミサにあずかり、聖書の分かち合いと茶話会を行いました。二本松教会では、高齢の信徒をはじめ、シスターたちや外国人信徒たちが出迎えてくれて、板垣神父の司式のもと、充実したミサにあずかることができました。分かち合いも5グループに分かれ、どのグループも積極的に分かち合い、一層の親睦とみ言葉への理解を深めました。時間を忘れるほどの盛り上がりでしたが、午後4時過ぎには切り上げ、マリア様の前で記念撮影をして帰路につきました。帰りの車中でも会話ははずみ、午後5時半過ぎにいわき教会に到着し散会しました。この新しい企画が、主の恵みの一日となったことに感謝いたします。(志賀 秀輝 いわき教会)

第4地区より

千厩教会

オウが心の教会だ いくべ！！

私、第4地区の広報委員を引き受けることになりました。

7ヶ所の教会を3名の神父様方が順番に廻りミサをかけ持っています。大変ご苦労されています。どこの地区にしても、同じ思いをなさっているのではないのでしょうか？

ましてや、寒い時期の車での移動は大変です。全国的に神父様が少ないということだけでなく、なにか良い知恵を仙台教区全体で考え合えば、いかがでしょうか？

また、これに伴って私の小さな教会では、信者名簿にたくさん名前があるにもかかわらず、ミサには数名のかぎられた高齢者だけの寂しいミサです。若い方や子供たちがミサに来られる日を待ち望んでいます。困った時の神頼みでなく、普段から教会にきてミサに授かり、天におられる私たちの父にあいご聖体を頂く。ご聖体は一度受けたのでこれで大丈夫ではないのです。

今日いただいたご聖体の力で、人をゆるせたとか、あるいは優しくなれたとか。先週のご聖体のおかげで忍耐することができた、もう一度頑張ろうと思ったとか。そんな即時的、直結的な認識はできませんが、ご聖体が永遠の命を与え続け、天国に導いている事実は変わりません。

どんなに体に良い食べ物も、一度だけでなく、続けなければ効果はありません。魂の最高の糧であるご聖体も、やはり定期的に(毎週)受けてこそ、その意味が認識できるようになります。そして、これこそ、人間の知性による理解をはるかに超える“キリストの体”の神秘体験だと思います。

私、昨年6月の「聖書と典礼」の7ページ目に大分教区司祭が書かれた文を読み、心に響くものがありましたので、その一部をここに書き記しました。

第4地区では、年に一度の代表者会議を、一関教会・水沢教会・気仙沼教会・大船渡教会の4教会持ち回りで行っています。今回は、第4地区の活動の細かい説明はできませんでしたが、以上です。(末廣 順士 千厩教会)

第3地区より

タルチシオ菊池大司教着座式に参加して



昨年10月末の岩手日報に、菊池大司教が新しい東京大司教に任命されたこと、司教は宮古出身で4歳の時に盛岡に移り、四ツ家の仁王小学校で学ばれたという記事が掲載され、岩手県から大司教が輩出されたことを誇らしく思いました。

2017年12月16日、東京カテドラル聖マリア大聖堂での着座式には、宮古教会、盛岡の四ツ家教会、志家教会などから信徒10数名が参列しました。

目白のカテドラル教会はあふれ

るほどの人、人。参列者は2500人余りだったとのこと。国内外の司教、司祭200人近くの長い列に続いた菊池大司教の後ろ姿に任の重さを感じ、胸が熱くなりました。式では教皇からの任命書が読まれ、前任者の岡田大司教から司教杖が手渡され、司教座(椅子)に着かれました。

新任の大司教が式の挨拶の中で、宮古教会で洗礼を受けたことを話された時、同郷の者として感慨深いものがありました。新潟教区司教の頃、かつて初聖体を受けた四ツ家教会に巡礼者を度々お連れ下さり、親交を深めさせていただいたことが思い出されます。

7年前の東日本大震災の時、カリタスのリーダーとして宮古へいち早くおいでになり、心を込めて全体を見据えボランティアの指示に当たられていたことも忘れられません。

大司教は挨拶の最後に「司教のために、今日この瞬間からお祈りをお願いします!」と結ばれました。心からの感謝とご大任のつつがない成功をお祈りしたいと思います。(第3地区着座式参列者一同)

第6地区より

元寺小路教会

大聖堂パイプオルガン

元寺小路教会にパイプオルガン(以下:オルガン)が設置されて5年が経過しました。典礼憲章にも記されているようにオルガンは、古来ミサ典礼において重要な役割をなすとされています。当教会は仙台駅からも近く、市の中心部にあるという地の利も生かし、より多くの市民の皆様にオルガンの演奏を聴いていただき、教会を身近に感じていただくとともに宣教の役割も果たしていければと考えています。

これまでに国内はもとよりドイツ、フランス、イギリス、スペイン、パレスチナなどから演奏家をお招きしてコンサートを開催しました。これらはすべて元寺小路教会オルガン管理委員会が企画や運営を行っており、ギャラの設定、ポスター制作やチケット販売方法をはじめ何から何まで初めてのことで大変な苦勞でした。コンサートを開くことで演奏者を含めて素敵な出会いがあり、大変ながらも何とかここまで手作りできてやることができました。

コンサートは年2回程度開催しており、それ以外の月の第3土曜日午後2時から、「オルガンによる祈りのつどい」(入場無料)を開催しています。これは信徒によるオルガン演奏と朗読を聴きながら静かなひと時を過ごしていただくつどいで、今年2月で34回目を迎えました。地元新聞紙の情報コーナーでお知らせをしていることもあってか、一般市民の入場者が少しずつ増えてきています。土曜の午後、通りすがりの方でも気軽に立ち寄りいただき、しばし癒しの時を過ごしていただければと願っています。

宮城県外の教会の皆様も仙台にお越しの際にはぜひカテドラルにお立ち寄りいただき、オルガンの荘厳な音色を味わっていただければ幸いです。(園部 英俊 元寺小路教会)



日本カトリック医師会仙台支部平成29年度活動報告

今年度は、5月14日に開催された日本カトリック医師会理事会・総会で、福島支部長の茂田先生から、仙台支部と福島支部を合併したいとの提案があり、承認されて合併の運びとなりました。



今年度の仙台支部総会は、福島市で8月23日に開催し、福島支部を仙台支部に吸収合併することが承認されました。総会の参加人数は18名で、同時開催した公開講演会の参加は24名、講師は香山雪彦氏(福島県立医大名誉教授)、演題が「依存症について」でした。1時間余りの御講演の後、活発な質疑応答があり、日常診療に即、役立つ有意義な内容でした。講演の後、昼食を共にし、この席で会員の親睦を計ることができました。総会では、前年度の事業報告、決算報告と今年度の活動予定が承認されました。

なお、2支部合併に伴う会計の引き継ぎも行なわれ、支部会費が今年度から年

額5千円に値上げされることも承認されました。また、今年度の活動として既に報告の通り、4月には福島県原発被災地視察に出掛け、8月の医療関連学生セミナーの懇親会で、気仙沼市医師会付属高等看護学校支援の募金活動で36,558円の御寄付をいただきこれに併せて篤志家からの15万円を加え、186,558円を送金いたします。

昨年度からかかわっている大震災後若年者甲状腺エコー検査継続への協力活動は、溝口先生と今川先生が御参加くださり、プロテスタント教会(日本キリスト教団東北教区放射線問題支援対策室いずみ)からのお声掛けに応える形で、お力を注いでいただいております。そして、来年秋の日本カトリック医師会移動理事会は仙台で開催することとなり、この準備のため、今後意見をまとめていく予定です。(我妻 恵 仙台支部長)

広瀬川殉教碑の改修工事を終えて

仙台広瀬川大橋もと、西公園の一角に立つ仙台キリシタン殉教碑は、昨年12月初めに改修工事が終わり、同月9日平賀司教様によって2回目の祝別がなされました。初の祝別は、碑が完成した46年前、深澤守三神父(記念像の製作者)参列の下行われた除幕式の中で、当時の仙台教区長小林有方司教によってなされたものです。

今回改めて平賀司教様に祝別をお願いしたのは、記念像台座の修繕だけでなく、海外から訪れる方々にも記念碑の意味が理解できるようにと、碑文を英語、スペイン語、韓国語に翻訳し石に彫り込んだものを台座の左右に設置したことによるものです。以上の工事の他に台座の周辺をインターロッキング敷きにしたり、ステンレスのポスト・チェーンを廻すなどして記念碑に重厚さを加えることができました。このように当初予定にもなかった種類の改修工事ができたのも、県内外の信徒の皆様からお寄せいただいた寄付のおかげであります。

1年半前に目標額200万円で募金をお願いを開始しましたところ、半年で目標額を超え、最終的には300万円余のご寄付をお預かりすることになり、工事の範囲を広げることができました。ご寄付で特筆すべきは、水沢教会の方々から総額の3分の1に当るご寄付をいただいたことであります。それは、カルヴァリオ神父を含め7名の殉教者が水沢の近くの下嵐江(おろしえ)という所で捕縛され、水沢で拷問を受けた後、仙台まで送られてきたからであり、水沢教会の方は広瀬川に立つ殉教碑を大切に思っているからに違いありません。

今回の工事に際しては、資金提供くださった方以外にも多くの方からご支援・ご協力をいただきました。前述の碑文外国語版製作に当たっては、フィリピン出身のジョイ最上さん(英語)、ホンジュラス出身のアマドル・エベルさん(スペイン語、英語)、韓成洙さん(韓国語)に翻訳を引受けていただきました。また、森田直樹神父様にも良きアドバイスをいただきました。工事の施工においても、業者の方に天候不順や人手不足の中、精いっぱいご努力いただきました。

この殉教碑はもともと仙台教区から仙台市に寄贈されたものですが、今回付け加えられた部分も含め全部歴史的記



念碑として市に寄贈されます。市の許認可の取得にあたっては、市の担当の方からは非常に親切な対応をしていただき感謝しております。約50年前当会の前身「仙塩地区カトリック壮年連盟」の諸先輩が、構想を立て中心となって活動し建立まで漕ぎ着けたその努力を思う時、今回記念碑を補修・改修して次の世代に少しは長く残せる状態になり、我々は幾分なりとも責任を果たせたのではないかと安堵しているところです。

50年前も今回も多くのご支援・ご協力に恵まれたことを神と人々に感謝しつつ.....。

(岡田謙一 カトリック仙台壮年の会世話人)

仙台教区内の殉教記念行事の紹介

仙台教区では広瀬川殉教祭の他にも、いくつかの殉教祭が行われています。その一部をご紹介します。禁教の時代にあっても信仰を貫いた先人に学び、自分の信仰を見つめるよい機会になると思います。機会がありましたらぜひご参加ください。

「寿庵祭」

場所：岩手県奥州市水沢区福原 寿庵廟堂にて

(今年5月より、水沢教会でミサを献げ、その後、廟で献花を行う形となります)

日時：毎年5月下旬の日曜日と9月11日

- ・寿庵祭は5月が教会主催、9月が地元主催となっており、それぞれ田畑の祝福と豊作祈願も行われます。後藤寿庵が、教会のみならず地元全体から大切にされていることが感じられます。

「米川キリシタン殉教祭(東和町キリシタンの里まつり)」

場所：献花 宮城県登米市東和町米川 三経塚(献花)・綱木農村公園(まつり会場)

日時：毎年6月第1日曜日

- ・東和町キリシタンの里まつりは、町おこしのイベントで、殉教祭と同日に行われています。当日は米川教会でミサが献げられ、三経塚に移動し献花、その後、三経塚のすぐ近くにある公園にて伝統芸能の披露やコンサートが行われます。※米川から6kmほどの距離にある一関市藤沢町大籠には、「大籠キリシタン殉教公園」があり、公園内には「大籠キリシタン資料館」、「大籠殉教記念クルス館」があります。殉教祭にお越しの際には、ぜひこちらにもお立ち寄りいただければと思います。

場所：岩手県一関市藤沢町大籠字右名沢28-7

開館時間：午前9時から午後4時まで

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日休館)、年末年始

「二本松キリシタン殉教祭」

場所：福島県二本松市若宮1-361 カトリック二本松教会

日時：毎年11月3日

- ・二本松教会には「二本松キリシタン殉教碑」が置かれ、毎年11月3日には教会にてミサが行われています。

「仙台キリシタン殉教祭」

場所：仙台市青葉区 広瀬川大橋脇下 キリシタン殉教碑前

日時：毎年2月第4日曜日

※この記事は広報委員会が、『カトリック生活』2017年8月号「特集 東北の殉教地」を参照して執筆いたしました。(赤井悠蔵)

司祭のひとこと

この度教区報が再刊されることになったがその意義は大きい。地区制になってまだ日は浅いが小教区の枠を超えて協力すると言っても具体的にはどのようなすれば良いのか分りません。というのは行き来が便利な地域であれば統廃合した方がよい訳だし、わが教区においてはそれぞれに2、30キロ以上離れて点在している教会も多く、雪や交通機関の利用にも負担は大きい。結局司祭が動き回って現状を維持しているに過ぎません。ミサの時間は週ごとに変わる教会も多く主日の義務も果たしにくい。また地区担当の司祭も入れ代わり立ち代わりで信徒にとっては親しく話したり身近なことについて相談したりできる関係になりにくい。加えて信徒の高齢化が進み孤立して信仰を守っている。週ごとに変わるミサ時間に出席率も悪くならざるを得ません。▼このような状況下にあつて教区報の果たす役割は極めて大きいものがあります。教区報によってもたらされる情報は仙台教区という一つの活動体は生きており、心理的な安心感をもたらします。孤立すれば消滅します。司牧活動には多くの障害はあっても教会の施設を維持し情報を密にして信徒同士のケアにつないでゆくのは質の良い情報です。▼今は世界中から情報が瞬時に入って来ます。教皇様の回勅や教書もたくさん出て来ます。それらを分り易く小教区や信徒に届けてほしい。よく総論と各論という言葉がありますが、わが教区報も各論に近づけた具体的な記事になって提供して欲しい。総論だけでなく教皇様の教書で用が足りません。それを身近な所でいかに具体化すればよいのか人それぞれの取り組みに結びつけたいのです。▼信仰生活はみことばの味わいが源泉です。日常生活が教区報を通してイエス様に結ばれ仙台教区が一つになるように期待しています。(佐藤 守也)

2018年度 司祭人事

		担当 司祭	居住場所	前職(前任地)	小教区
第1地区	◎	ヴァレラ ミゲル カンデラリア レネ(淳心会)	弘前 浪打	淳心会本部(サバティカル)	本町(松丘)、浪打、黒石、五所川原、弘前
第2地区	◎	デ・ラ・ロサ・マルコ・アントニオ ロワゼール ジャン シャルル(協力) 佐藤修	三沢 八戸塩町 十和田		十和田(五戸)、三沢、八戸塩町、鮫町、野辺地、大湊、久慈
第3地区	◎	ゲストヴェオ ギャリー ガッラ ウィフリドス 小松史朗	四ツ家 四ツ家 司教館		四ツ家、上堂、志家、花巻、北上、遠野、宮古、釜石
第4地区	◎	高橋 昌 佐藤守也 川崎忠紀	水沢 一関 気仙沼		水沢、一関、千厩、大船渡、築館(新生園)、米川、気仙沼
第5地区	◎	会津隆司 森田直樹(京都教区) ラトゥール レイモン ファミニアラガオ フェルディナール(神言会) 川井啓(小教区管理者)	石巻 元寺小路 北仙台 元寺小路 古川	布池教会(名古屋教区)	古川、石巻、北仙台、東仙台、西仙台、塩釜
第6地区	◎	小野寺洋一 コンディ ニコラウス 幸田和生(東京教区補佐司教) フィラデルフィ パヴォール(神言会) 佐々木博(協力)	司教館 元寺小路 原町 元寺小路 司教館	任期延長 第3地区	元寺小路、八木山、一本杉、豊屋丁、亘理、角田、大河原、白石、原町
第7地区	◎	ノーサル ヴァツラフ(サレジオ会) ボルデュック エメ 狩浦正義(名古屋教区)	会津若松 野田町 松木町	鈴鹿教会(京都教区) 布池教会(名古屋教区)	会津若松、喜多方、南会津、松木町(桑折)、野田町
第8地区	◎	板垣 勤 エテメ・メヌンガ・エミル・ロドリグ フォリッシュ チェスワフ	郡山 白河 いわき		二本松、須賀川、郡山、白河、いわき(小名浜、湯本)

小教区以外

日本語研修: 李 錫 イ ソク(居住は元寺小路教会)

引 退 : 鷹鷲達衛、土井勝吾、横島健二(居住は司祭の家)

ツゲル・アントニオ(居住は暁星園)

首藤正義(居住は司教館)

サバティカル: 渡辺彰宏

療 養 : 氏家和仁

離任 : トマス・パヴェレツ(ドミニコ会)第7地区担当から ドミニコ会渋谷修道院へ

教区長 司教 : 平賀徹夫

司教総代理 : 小野寺洋一

教区事務局長 : 小松史朗

太字: 新任、転任、再任、任期延長 ◎: 地区長

司教日程

4 月	1 日 日	復活の主日	12 日 火	子どもと女性デスク	
	3 日 火	仙台白百合女子大	19 日 火	司祭評、司祭団役員会	
	6 日 金	郡山ザベリオ中	20 日 水	学法理事会	
	8 日 日	(学法)カトリックさゆり	25 日 月	月例会、責任役員会	
	10 日 火	司祭評、司祭団役員会	30 日 土	仙台白百合学園 125 周年	
	21 日 土	姜司教講演会(白河教会)	7 月	1 日 日	第 5 地区大会(東仙台)
	23 日 月	月例会		3 日 金	司祭評、司祭団役員会
	28 日 土	校長・理事長・総長・管区長の集い(東京)		6 日 金	部落差別人権委・全国会議(大阪)
	29 日 日	”		7 日 土	”
5 月	3 日 木	CND 総顧問一行 来訪		9 日 月	司教総会
	12 日 土	松丘 ミサ (予定)		10 日 火	”
	15 日 火	司祭評定例会、司祭団役員会		11 日 水	”
	19 日 土	宣教司牧評役員会		12 日 木	”
	20 日 日	聖霊降臨祭カテドラル堅信式		13 日 金	”
	21 日 月	日韓司教交流準備会		16 日 月	カルメル会修道院(北海道・十勝)
	22 日 火	”		18 日 水	東京教会管区会議(札幌)
	25 日 金	仙台教区サポート会議		19 日 木	”
	27 日 日	寿庵祭 ミサ 10:00 水沢教会		21 日 土	宣教司牧評役員会
	28 日 月	月例会		27 日 金	青森県カ幼連研修会
	29 日 火	ドミニコ中高、小			
	30 日 水	ドミニコ幼 2 園			
	31 日 木	部落差別人権委・定例会			
6 月	7 日 木	社会司教委			
	8 日 金	部落差別人権委・事務局会議			

仙台教区広報委員会では、原稿の投稿を募集しております。投稿は、随時受け付けますので、下記のメールあてに添付ファイルでお送りいただければ助かります。また、メールをお使いでない場合は教区事務所宛てに、手紙でお送り頂いても結構です。

sendaikyoukuho@gmail.com

皆様がたの積極的な投稿をお待ちしております。

編集後記

やっと、234 号を皆さまのお手元にお届けすることができました。突如名前を呼ばれて集められ、教区報の編集を始めました。編集委員の一人ひとりができるだけの力と知恵をしぼり、心をこめて編集いたしました。しかし、できればには、反省しきりの毎日です。これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(Sr.長谷川昌子)

何かを形にするということは、大変にしんどいことです。今回も、「もはや、ここまでか.....？」という局面が何度かございました。まずは、形にできたことを、素直に喜びたいと思います。私はできたものの結果も大切であると思いますが、より大切なのはその過程ではなからうか？と思います。皆さまがたのご批判をお待ちしております。

(上野 隆)